



Title	マイクロスコープ下のウイルス
Author(s)	辻野, 直三郎
Citation	makoto. 1976, 16, p. 2-3
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86193
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

○

ンの効果が最大限に期待される
がためである。

○インフルエンザによる被害

インフルエンザ罹患率の最も
高いのが学童の年令層である。
昨年五月一日現在府下高校、中
学、小学生の人員は左記の通り

であるがこのうち罹患率の最も
高い小学生の仮りに何パーセン
トかが罹患したとすればその伝
播力は、増幅器? の役わりをな
すといわれる。最も都合のよい

(企画部統計課調による)

高校生 二七一、一八二人

中学生 三二三、三五〇人

小学生 七九九、三四一人

中学生 三二三、三五〇人
小学生 七九九、三四一人

に一般社会と急速な伝染源と
なり特に乳幼児など低年層はも
とより高年令層と共に生命の危

険、脅威を与える。また一面中
学より高校へ、そして大学へと

者その他多くの市民に及ぼす經
済力のこうむる被害は実にはか

種による予防に力を用いる外に

より知らないものがあるであろう。

○ むすび

既述の通り残念ながら現在の
ところインフルエンザに対する
原因的療法が確立? されていな
性の呼吸性感冒はこれが予防接

を乞う次第である。乞うご叱正

を。(八月十日稿)

受験期の重要な不安を与えるのみ
ならず経済都市を荷負う多くの
生産工場、産業、通信交通労働

はワクチンによる急性にして悪